

|      |
|------|
| ~ 13 |
| 3749 |
| 17   |





門 へ 13  
號 3749  
17

釋迦八相倭文庫

三拾五編序

用細字

丙辰春發兌

万亭應賀作

江戸人形町通

歌川國貞画

上州屋重藏壽櫻



釋迦八相倭文庫三拾五編序

夫一心三相本覺不覺始覺の三也本覺池水澄湛として濁長を如く不覺風塵寒氣の縁ふりて浪立濁凍が如く始覺日温めて凍解て水澄が如く

難の色欲耶菩提種と多く直か如来の戒を受をも戒僧俗とも持べ

戒と授けい因ふ依て命終の後毗沙門天王の子と生るといふ人仏小成らと思

る此大道を直直誰も行べと云

安政三丙辰年正月吉日發行

万亭應賀誌

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道

此語誠成仏の近道



寶無極佛

利劍の名号弘法大師の筆  
真物京都百万遍知恩寺に有り



毘沙門天王



五五尊の第七  
師子吼菩薩  
能作性の  
玉をのそ  
獅子王の劍を  
製する  
善菩薩  
師子吼

信女屋





佛具楽器の名号 聖徳太子の筆 真物大坂天王寺あり

# 南無阿弥陀仏

番匠道具の名号 聖徳太子の筆 真物大坂天王寺あり



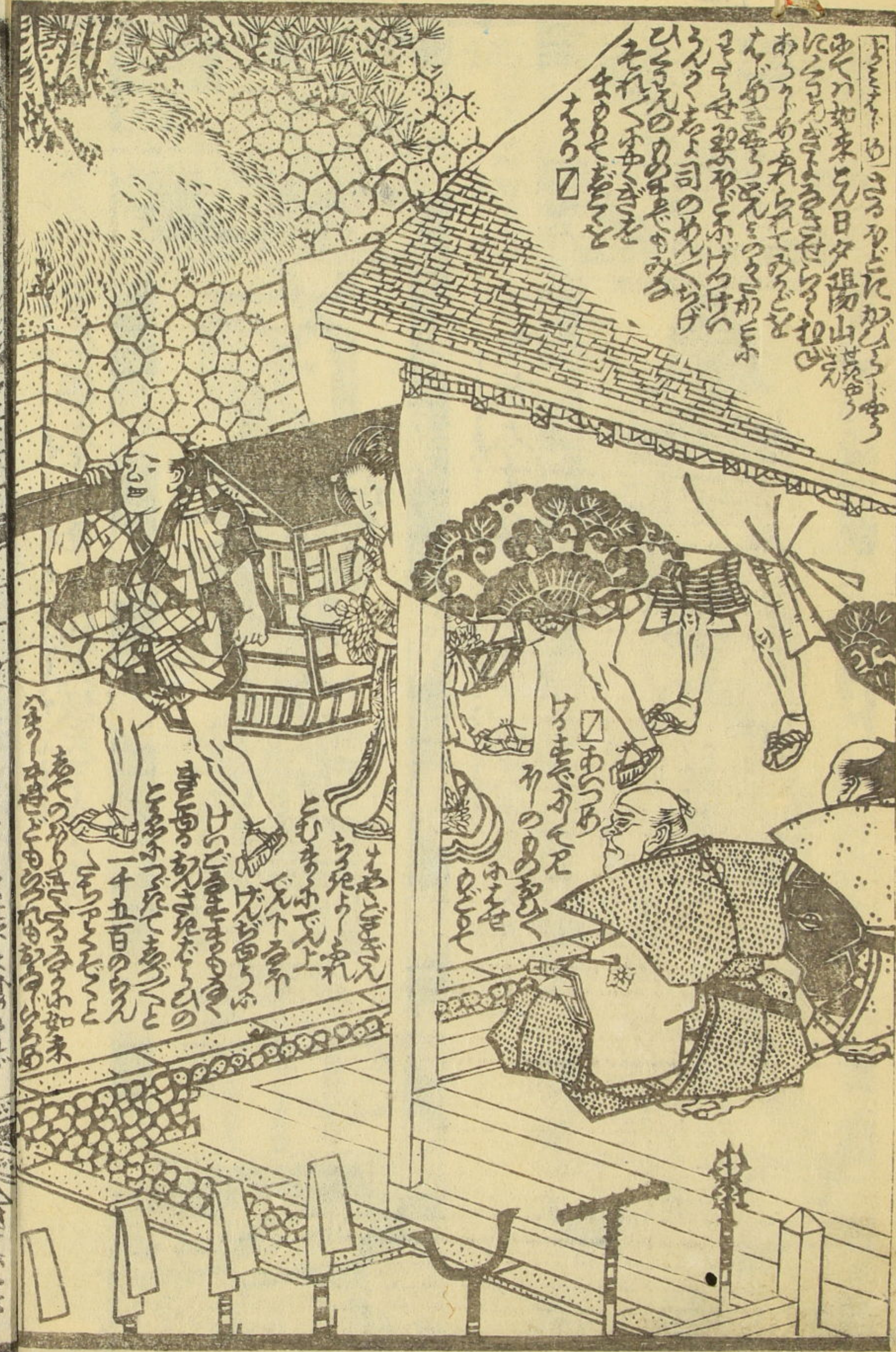
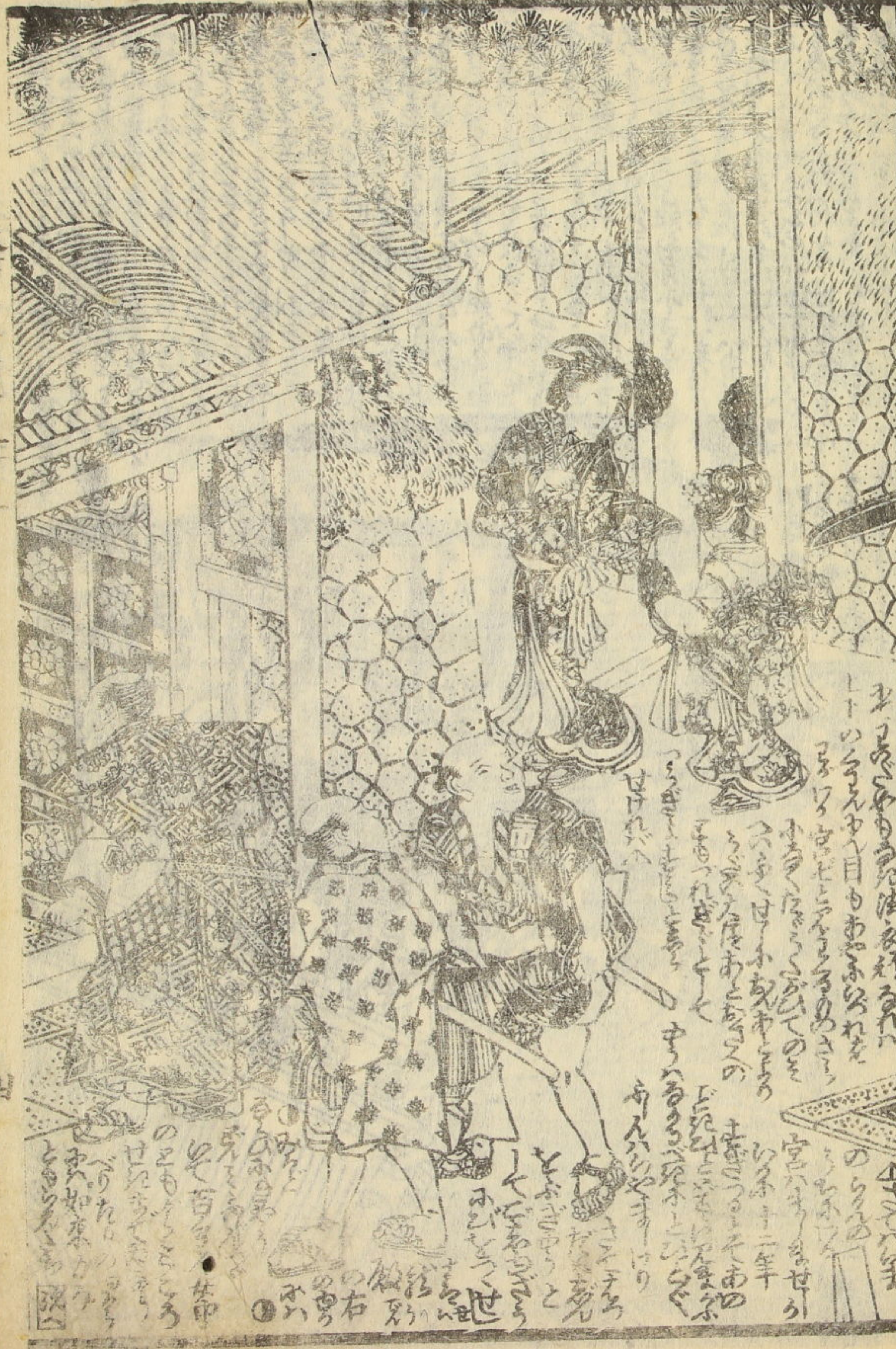
羅喉羅太子  
父の片袖を  
携て  
夕陽山  
獨登り  
其

らびらち子

おまたらゆい

様女屋ナリ





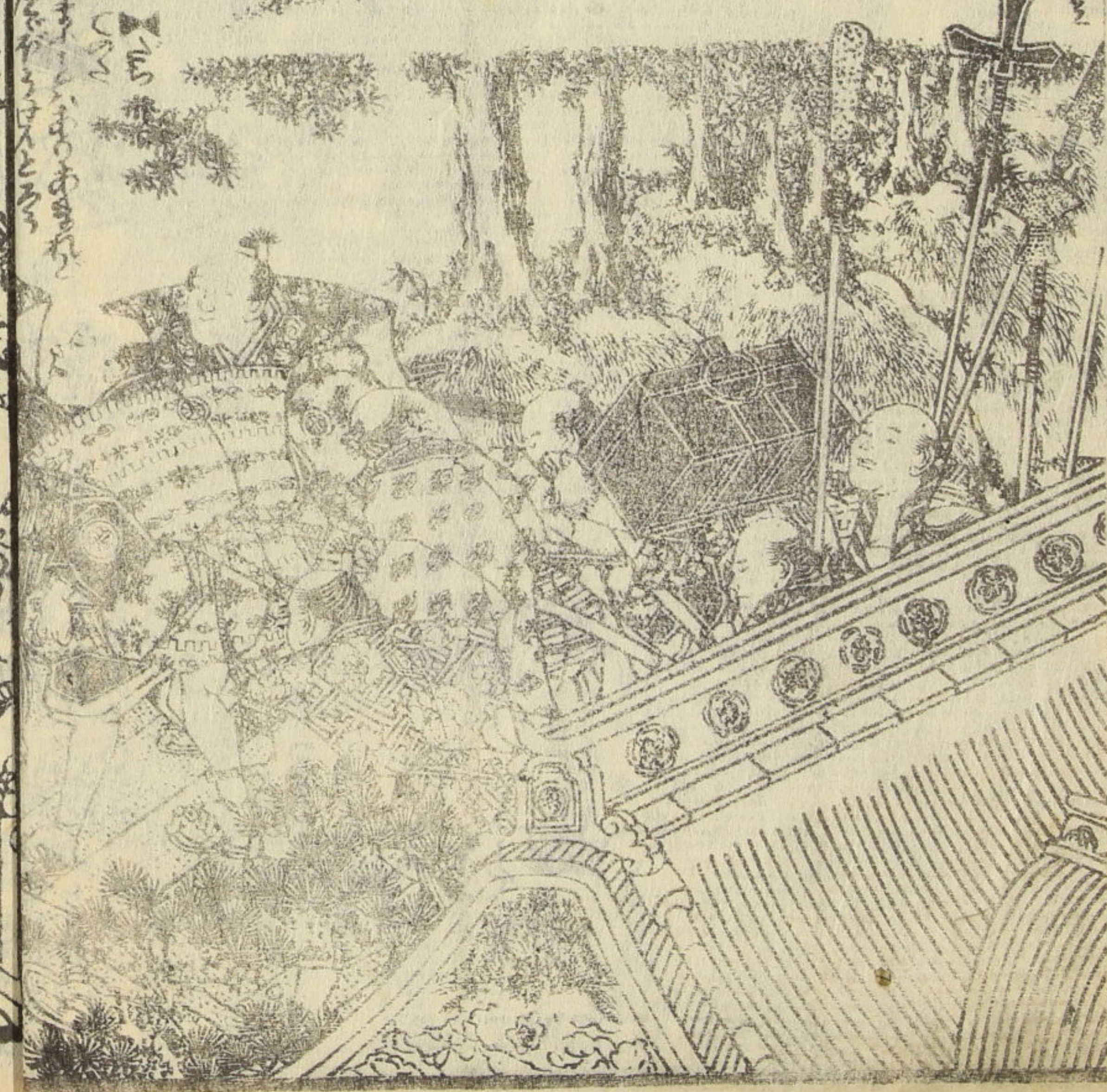
湯田山神社に、餅屋や味噌屋の屋台が並び、参詣者が多く見られる。この日、背負物師の頭目も参詣し、神前に参籠して祈願をした。

この背負物師は、江戸から大坂まで、一日で往復する。荷物は、米、麦、豆、粟、雑穀、醤油、味噌、酒、薬、など、色々とある。この頭目は、一日に往復して、一日に千五百の石の荷物を運ぶ。この頭目は、江戸から大坂まで、一日で往復する。荷物は、米、麦、豆、粟、雑穀、醤油、味噌、酒、薬、など、色々とある。この頭目は、一日に往復して、一日に千五百の石の荷物を運ぶ。

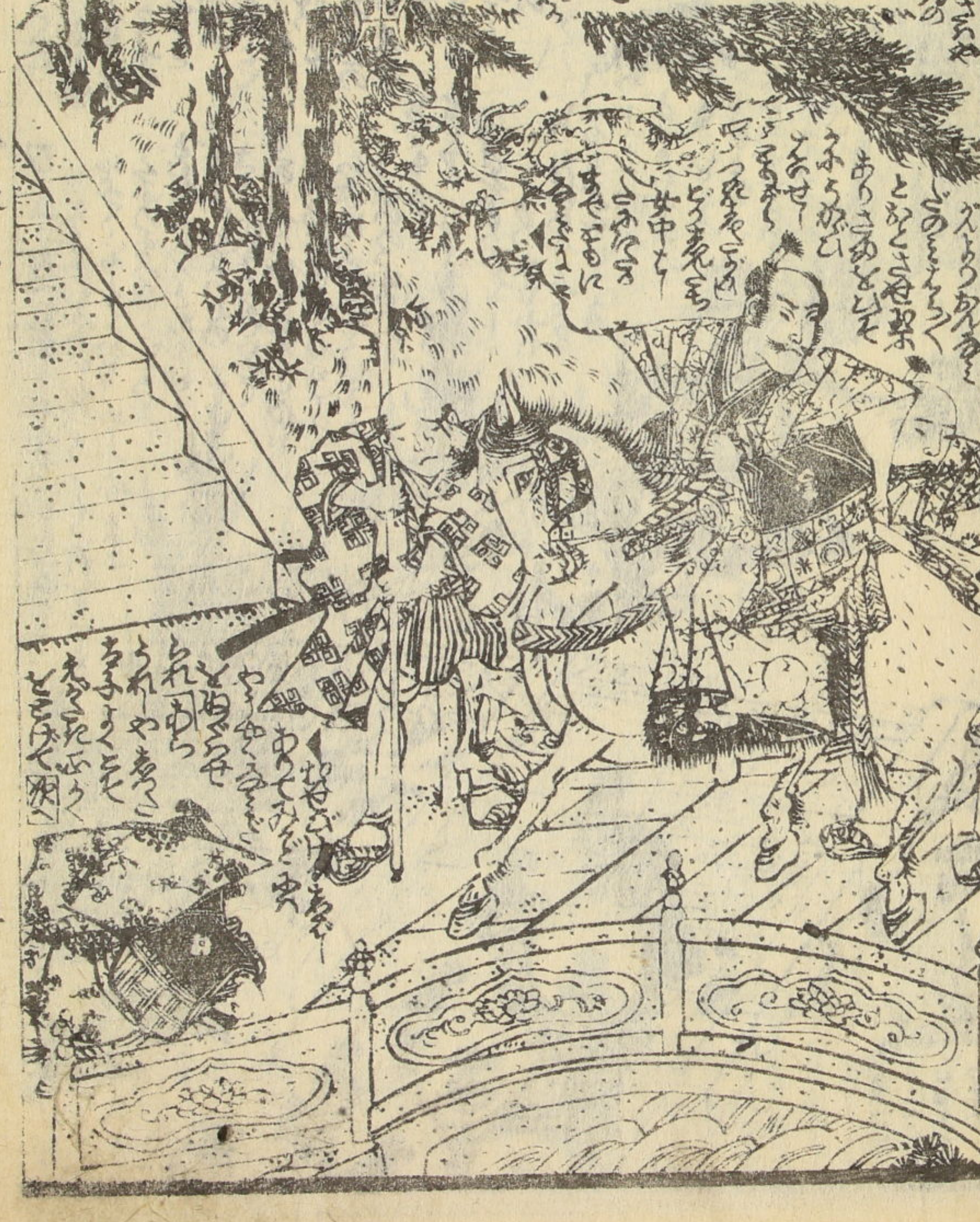
この餅屋は、江戸から大坂まで、一日で往復する。荷物は、餅、菓子、干菓子、など、色々とある。この餅屋は、江戸から大坂まで、一日で往復する。荷物は、餅、菓子、干菓子、など、色々とある。この餅屋は、江戸から大坂まで、一日で往復する。荷物は、餅、菓子、干菓子、など、色々とある。



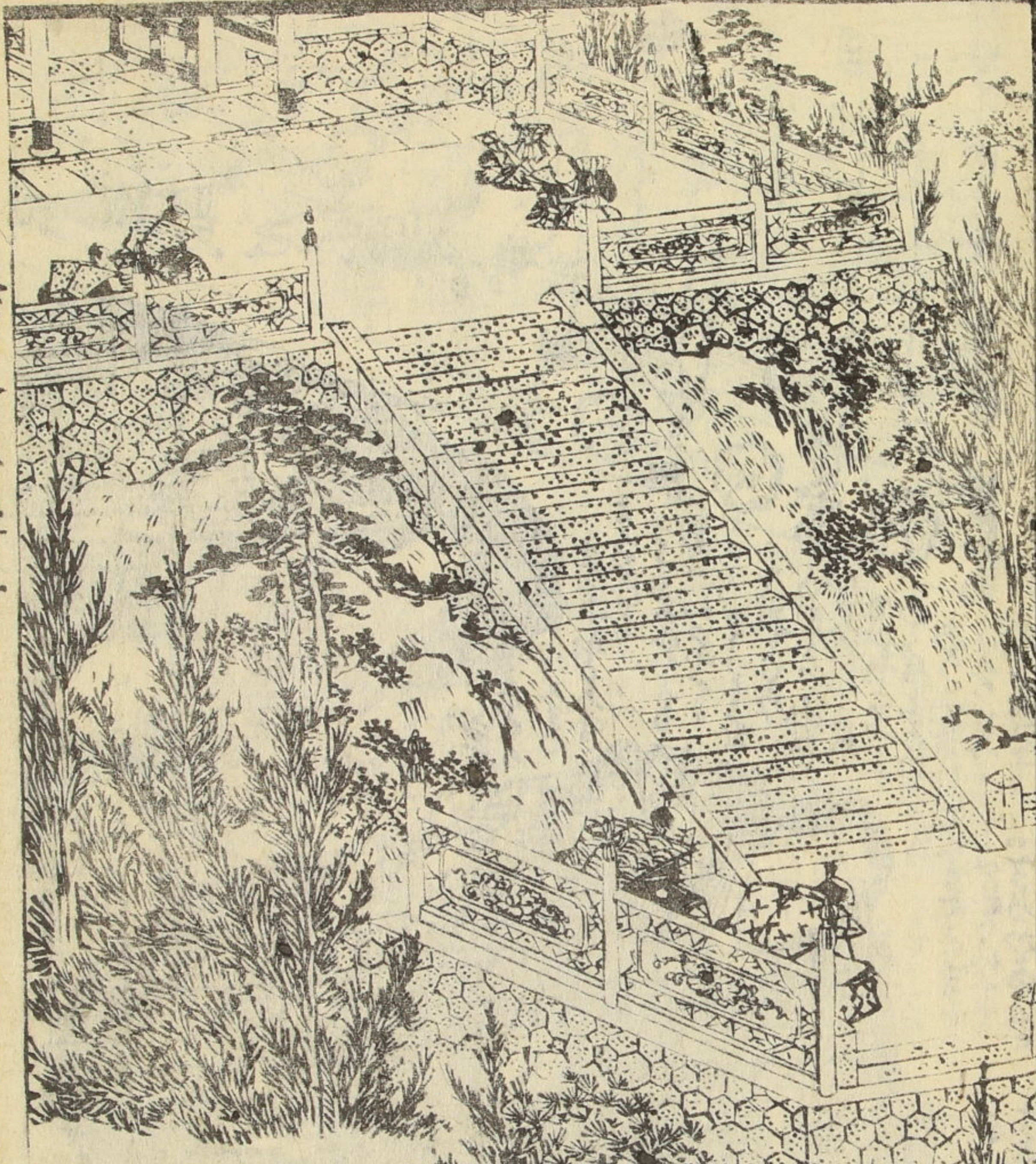
如東と云ふも... 帝の御前におまはす... 山本と云ふも... 女中と云ふも...



山本と云ふも... 女中と云ふも... 帝の御前におまはす... 如東と云ふも...



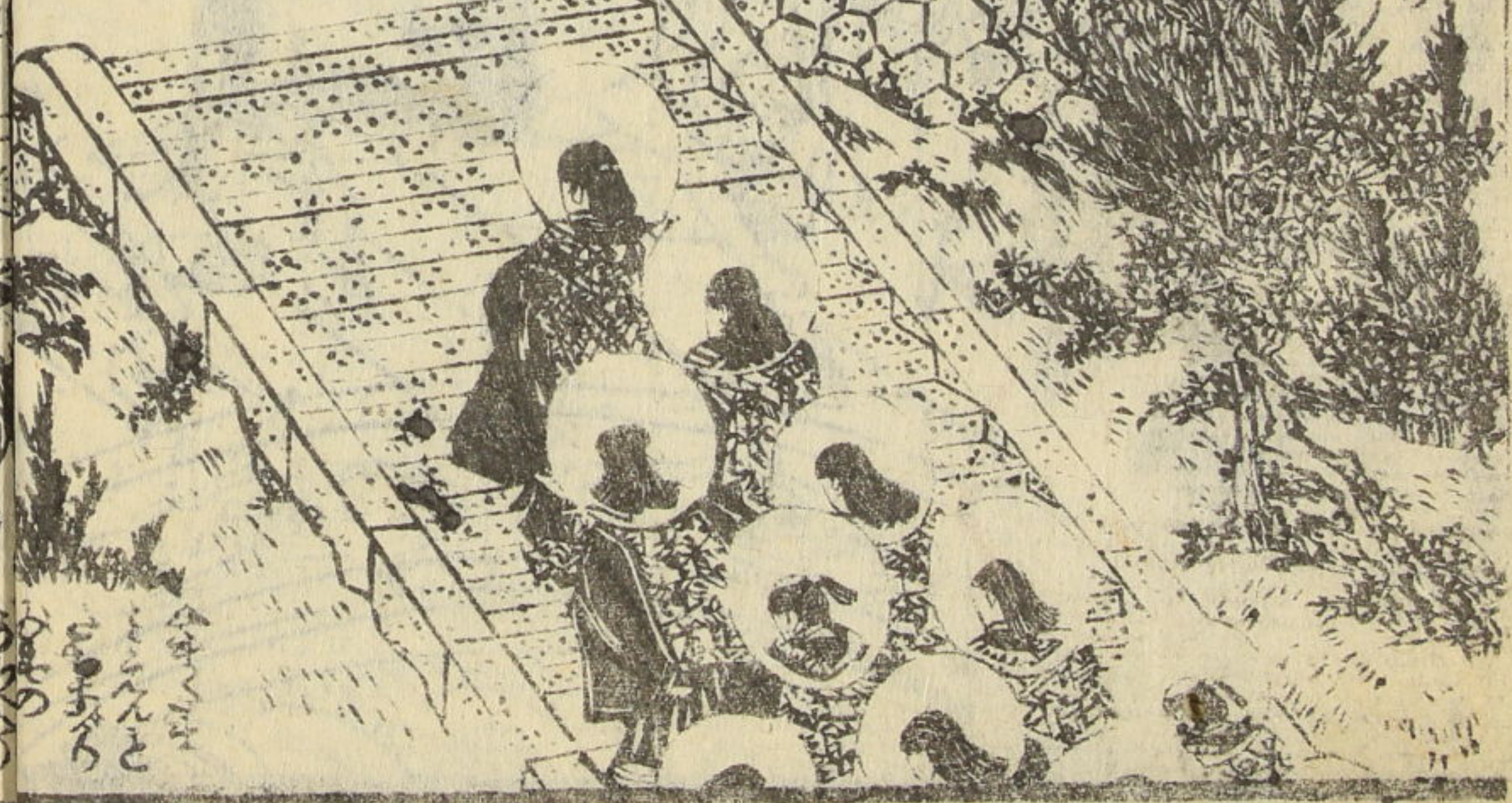




Vertical Japanese text at the bottom left of the page, likely a commentary or part of a narrative.

Vertical Japanese text at the top right of the page, continuing the narrative or commentary.

Vertical Japanese text in the middle right of the page, continuing the narrative or commentary.



Vertical Japanese text on the far right edge of the page, possibly a page number or title.























歌川國貞画

倭文庫三拾五編

安政三

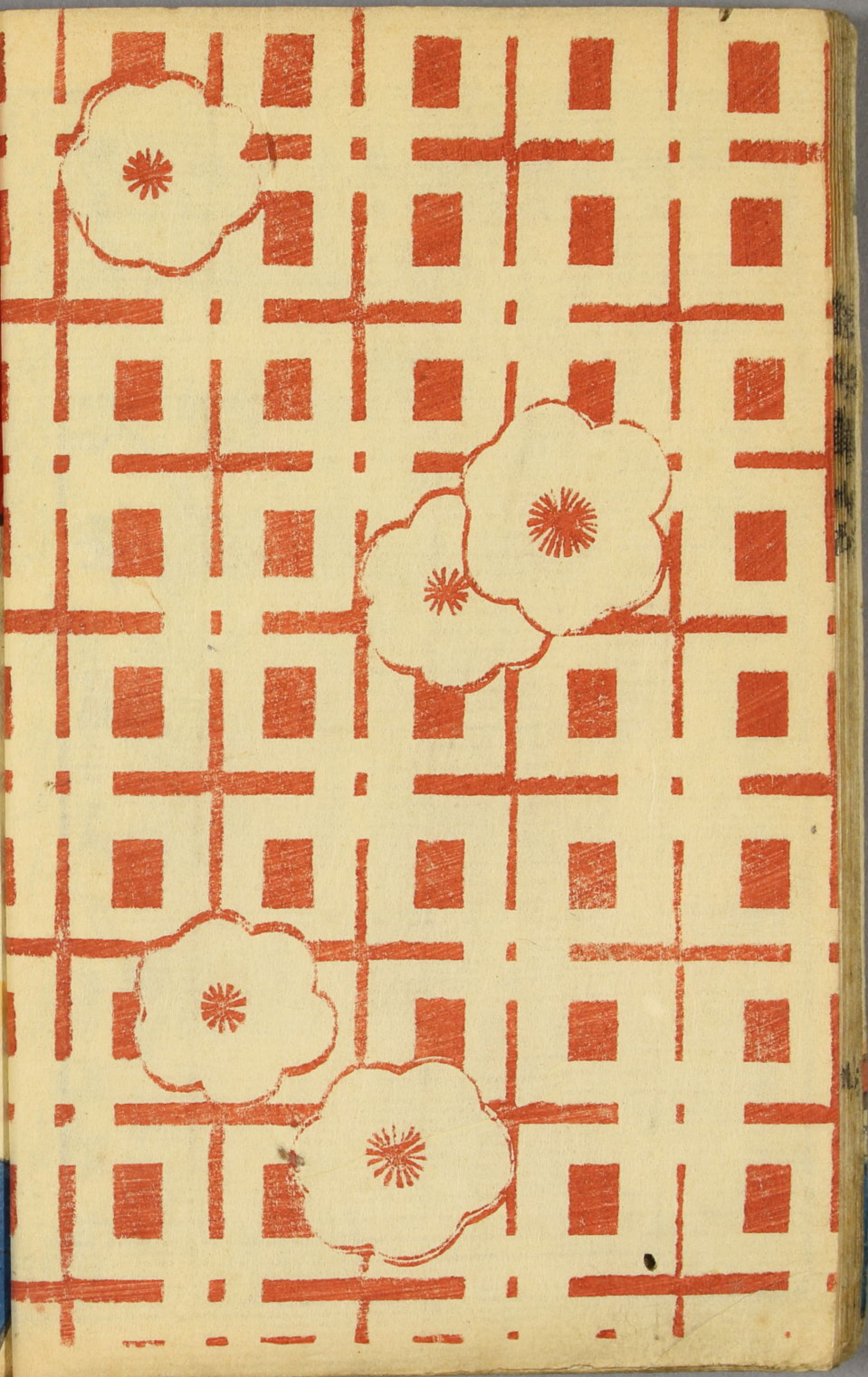
丙辰年

孟陽新刊



錦重堂梓

下



























あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

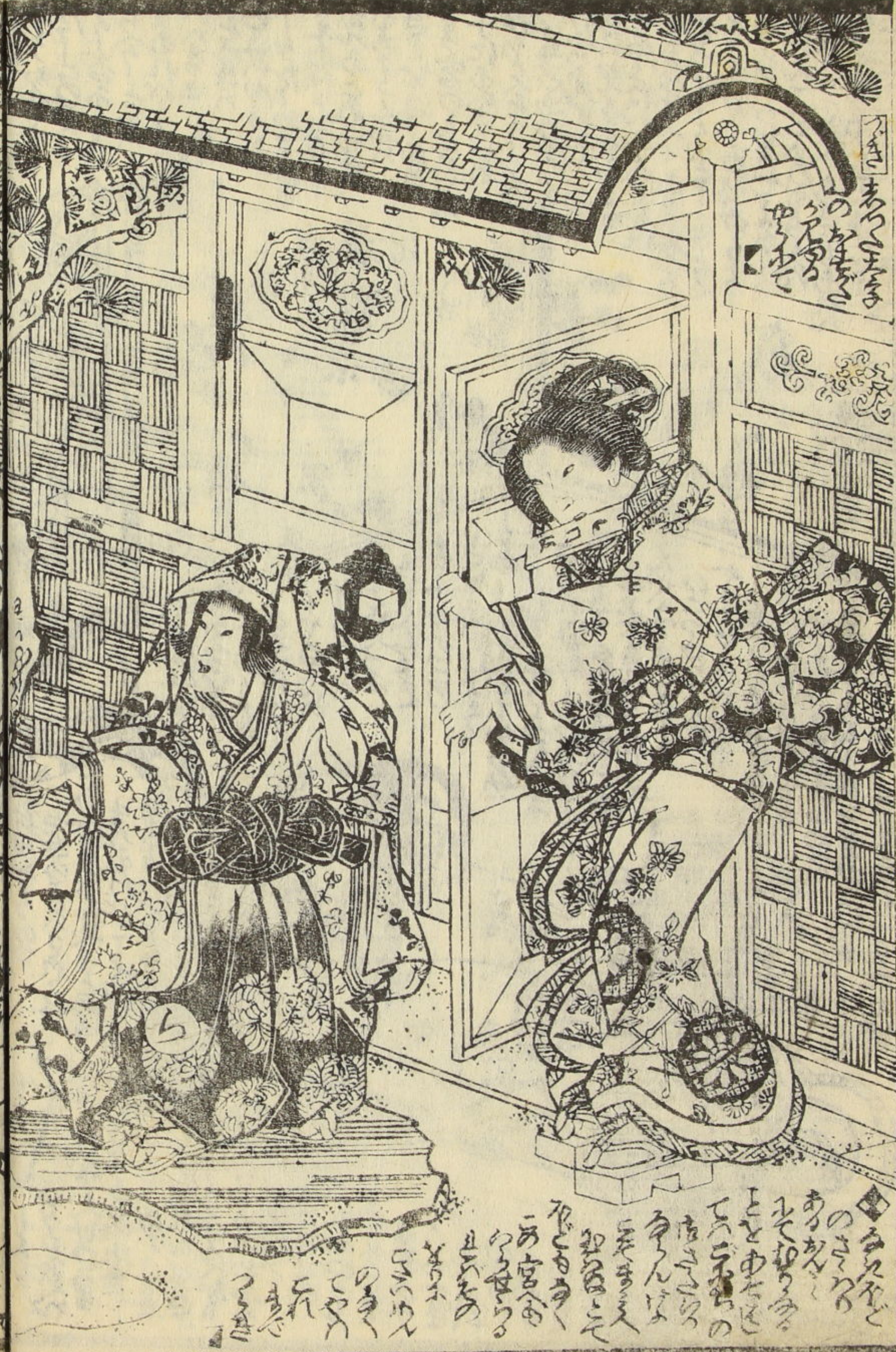
あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて



あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

あつちを  
のちまき  
やわて

本文 軍 七 五

本文 軍 七 五























倭文庫三拾六編

外題曲五團扇

安政三  
丙辰年  
孟取新刻



錦重堂版

上





釋迦八相  
倭文庫

第三拾六編上

万亭應賀作

歌川國貞画

丙辰春

開市

小園

上州屋上梓

釋迦八相倭文庫三拾六編序

孔子の云君子に三畏有るとも畏天命畏大人畏聖人  
言の之也小人の不知天命且不畏神大人聖人の言を侮  
る是所謂佛門の三帰依也彼小天命と畏る所は即是帰  
依佛より彼小大人を畏る所は即是帰依僧也彼小聖人の言を  
畏る所は即是帰依法也叔四諦と云苦集滅道を云夫  
苦の生老病の教集の骨肉財物と聚集を滅の寂滅止  
息道の懐道修行を云也此文卷中小著をべきと界  
て茲小載ると爾云

安政三稔  
丙辰孟陬

卯九

万亭應賀誌

本支庫七六





耶輸陀羅女の扇

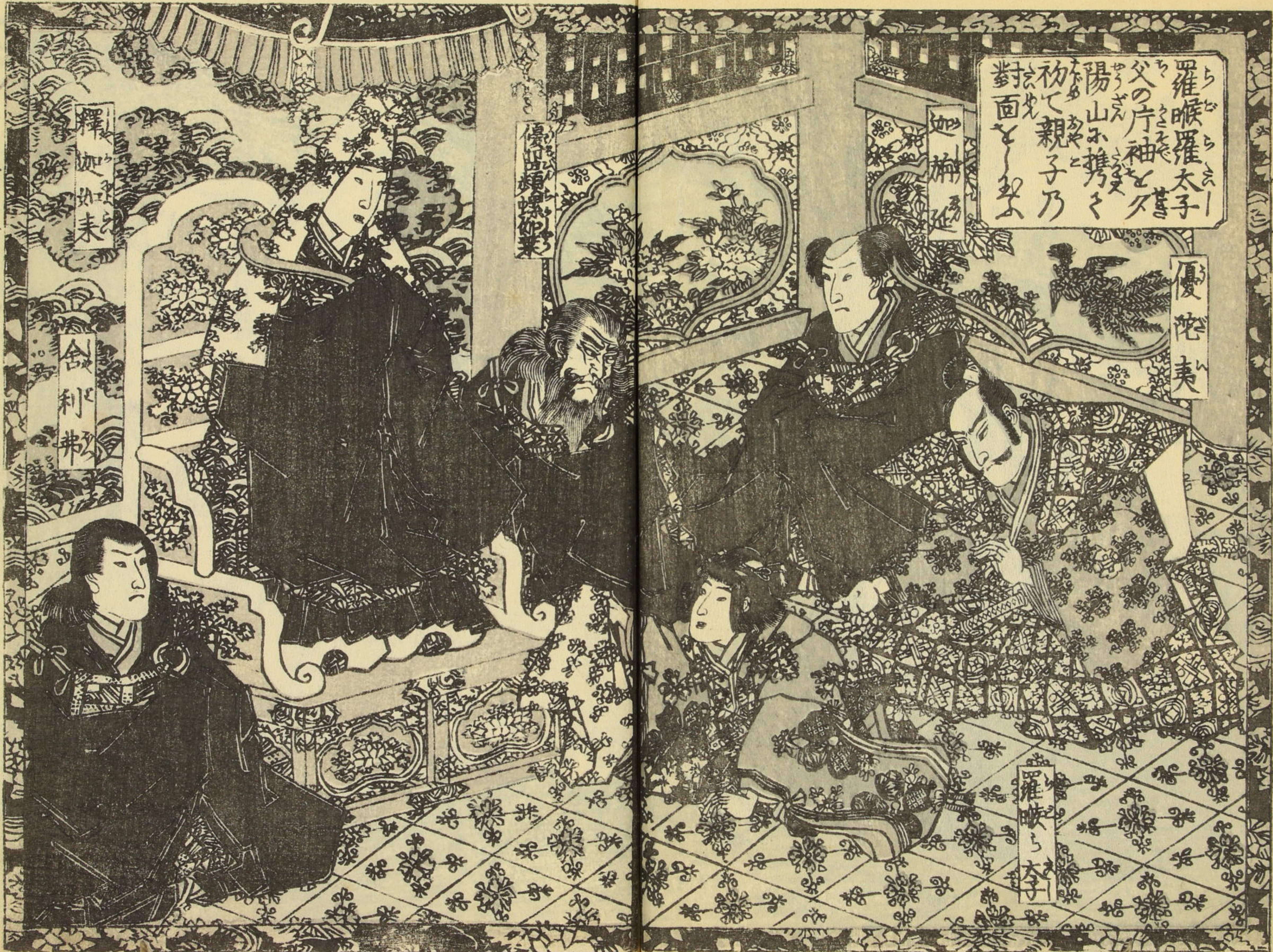
阿難尊者



優陀夷の女房  
耶輸陀羅女

耶輸陀羅女  
阿難を戒師  
としく飾と  
落し得道  
を願ふ





釋迦如來

舍利弗

優陀夷

如來

羅暎羅太子  
父の片袖と夕  
陽山に携る  
初て親子乃  
對面と梨

優陀夷

羅暎羅太子

傳文庫九六

六八四七













倭文庫九六

六



倭文庫九六

五























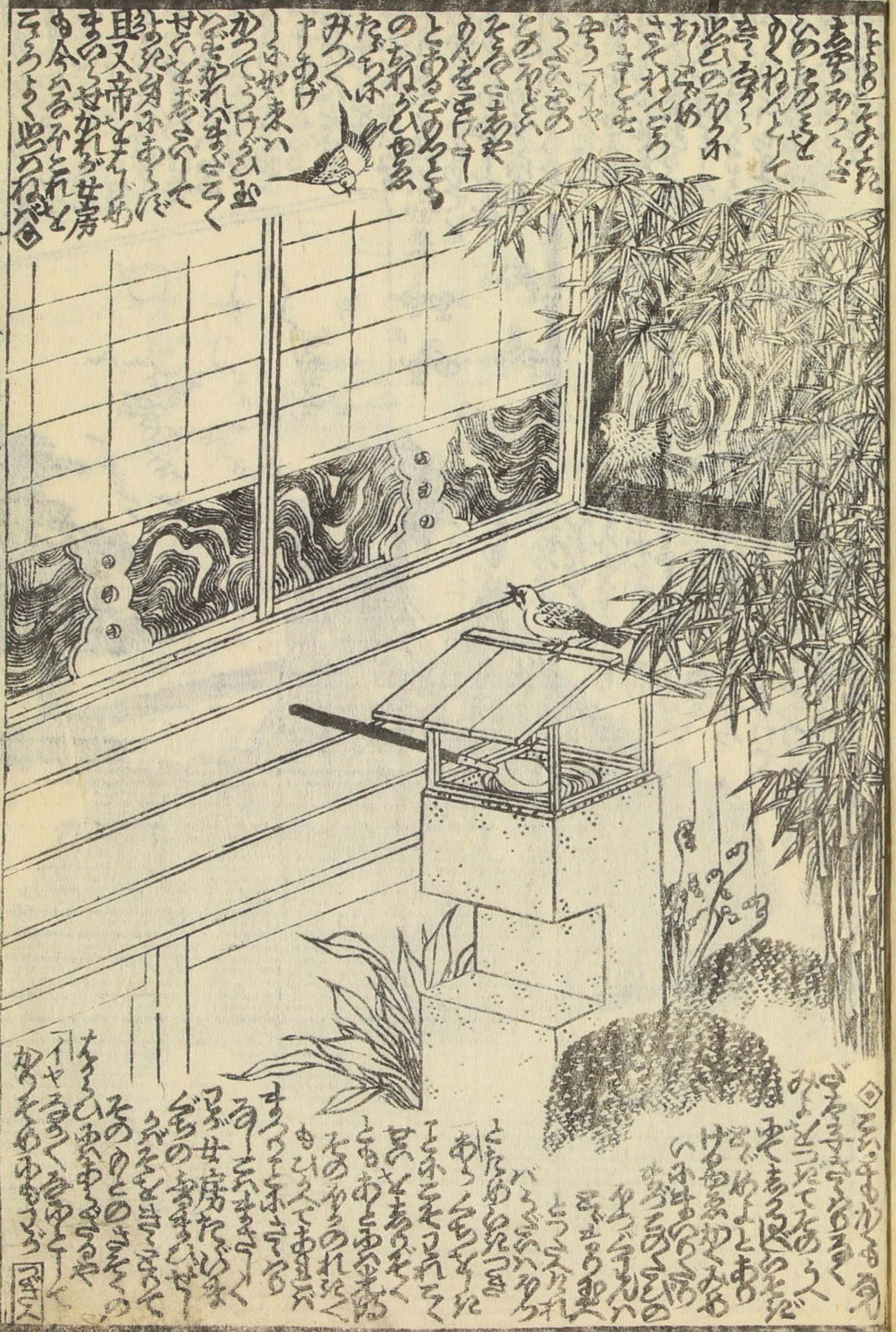
万  
亭  
應  
賀  
作

歌  
川  
國  
貞  
画



下





倭文庫廿六

十一



丙辰孟陽  
新紳史

江戸入形町通  
上州屋重藏板

應賀傳

玉身屋

倭文庫

二年六編

巻

Shōmei





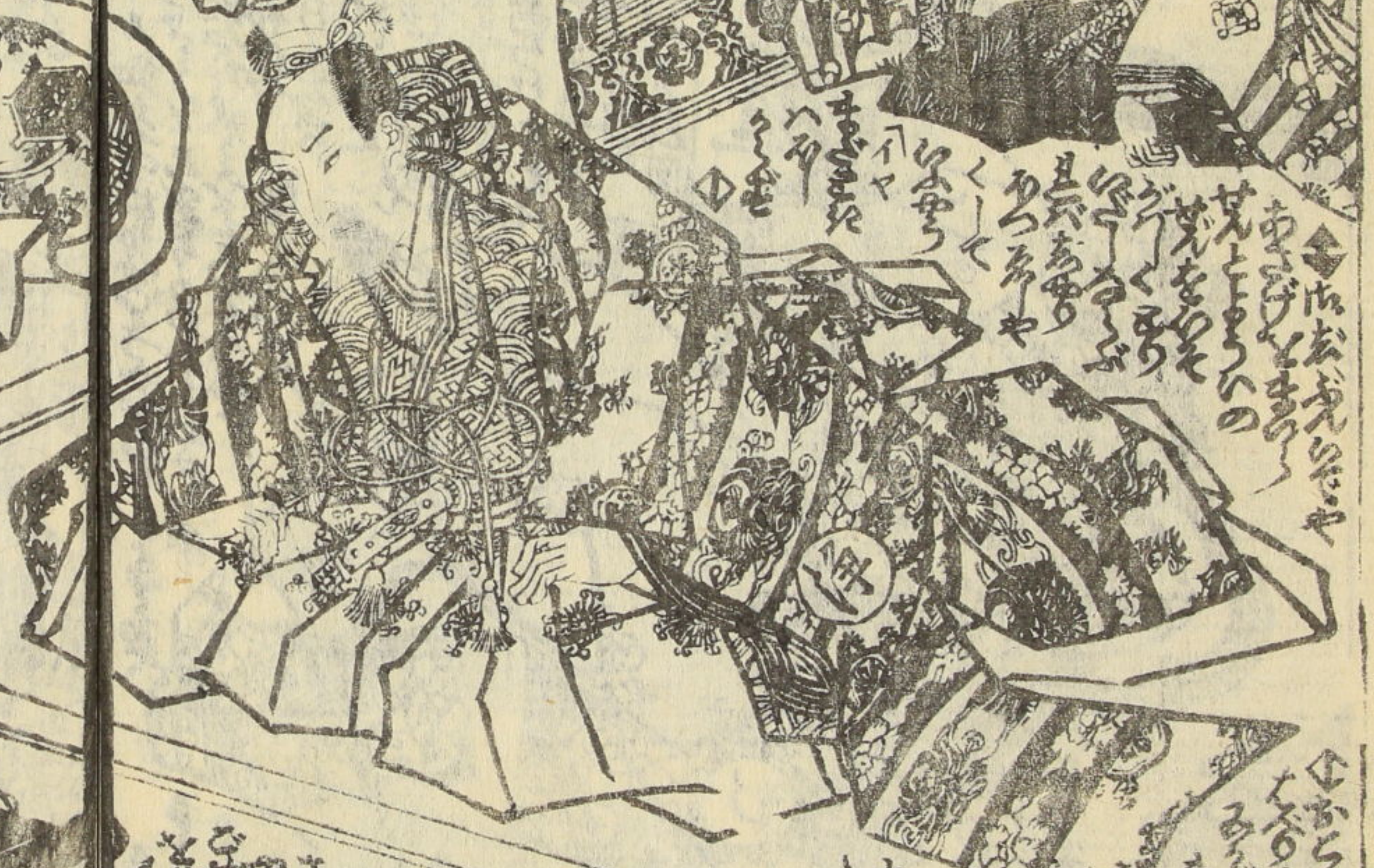


相持り世の人  
ち有相持り世の人  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた



あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた

あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた



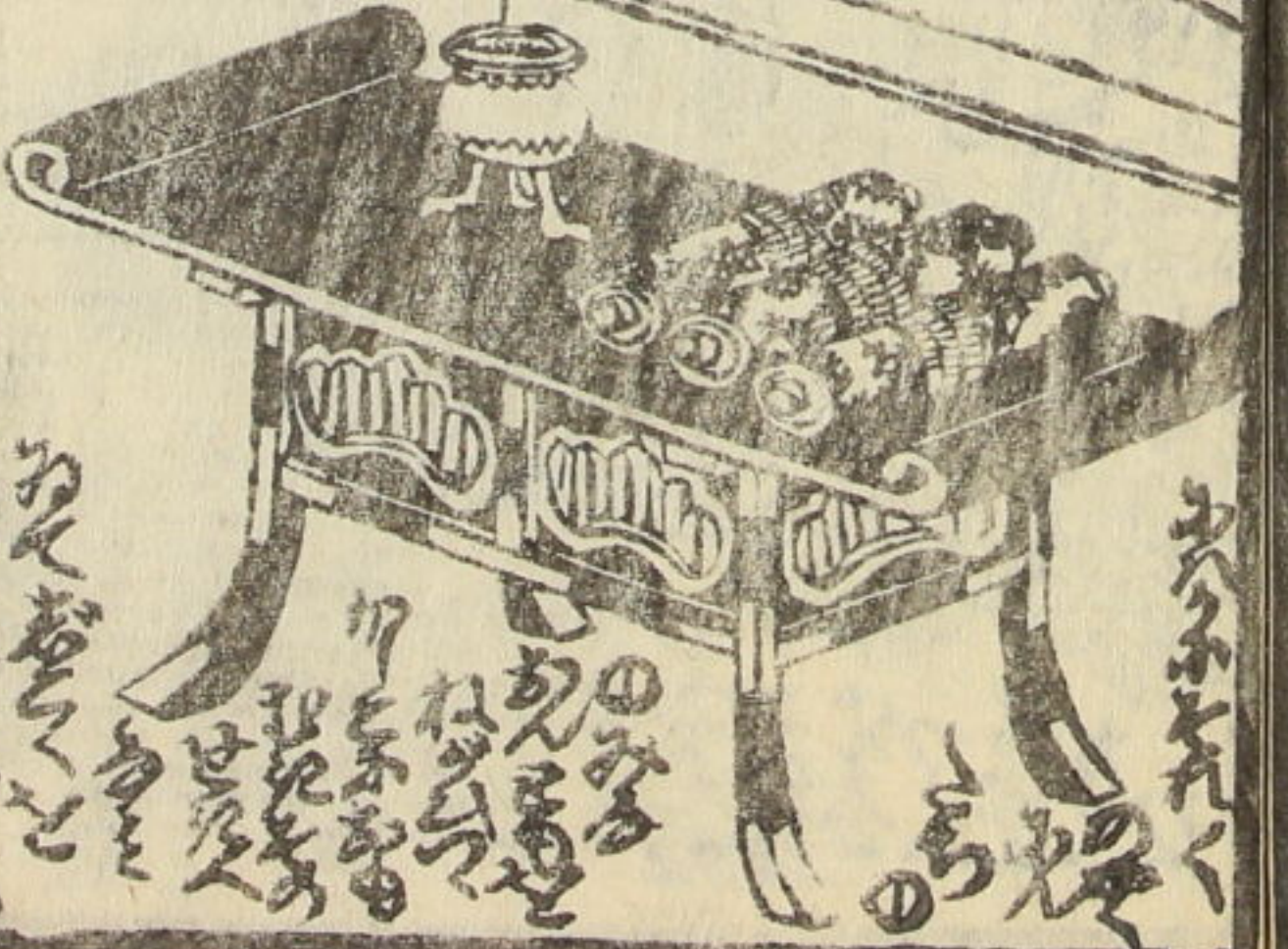
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた



あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた

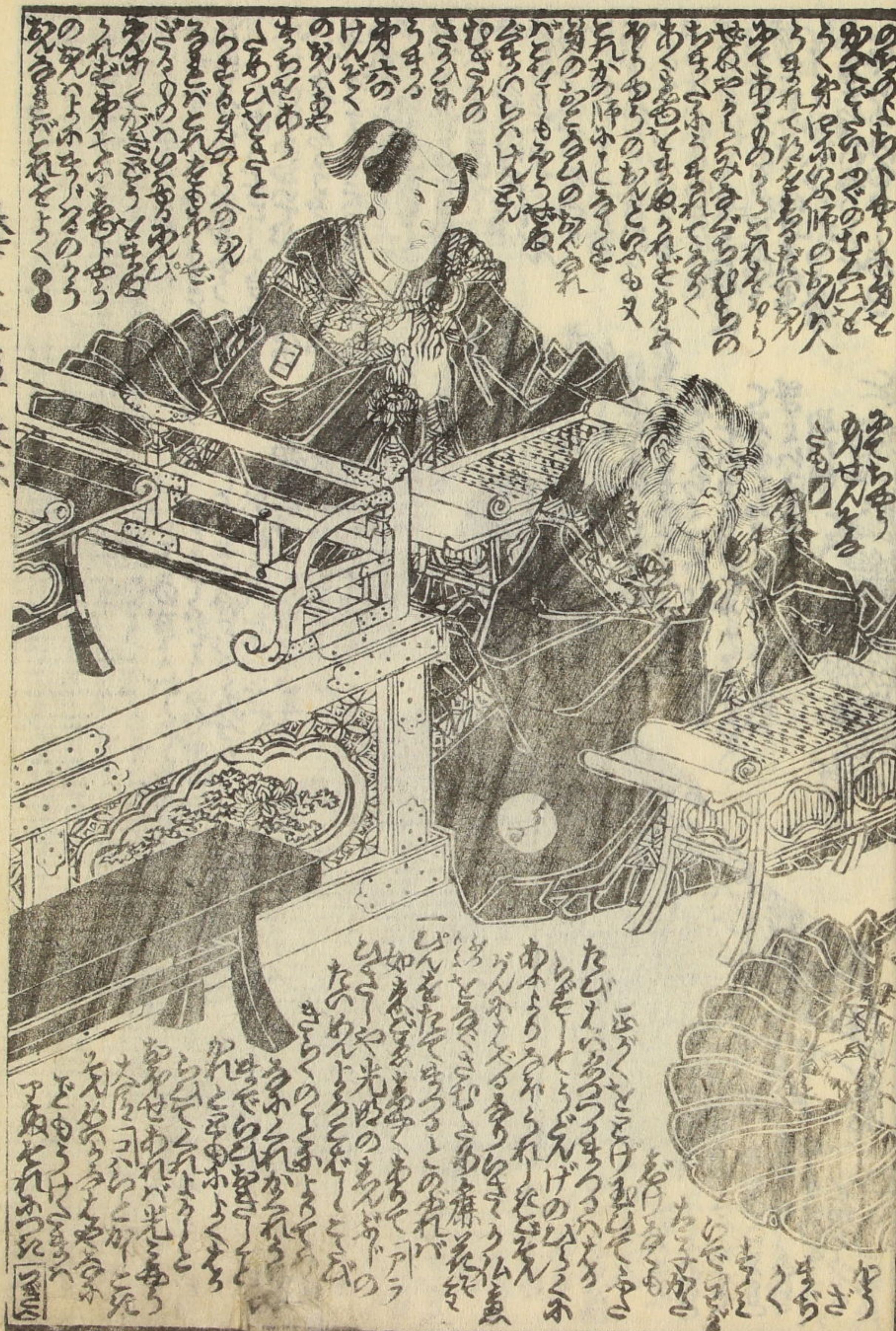


あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた



あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた  
あつたはあつた

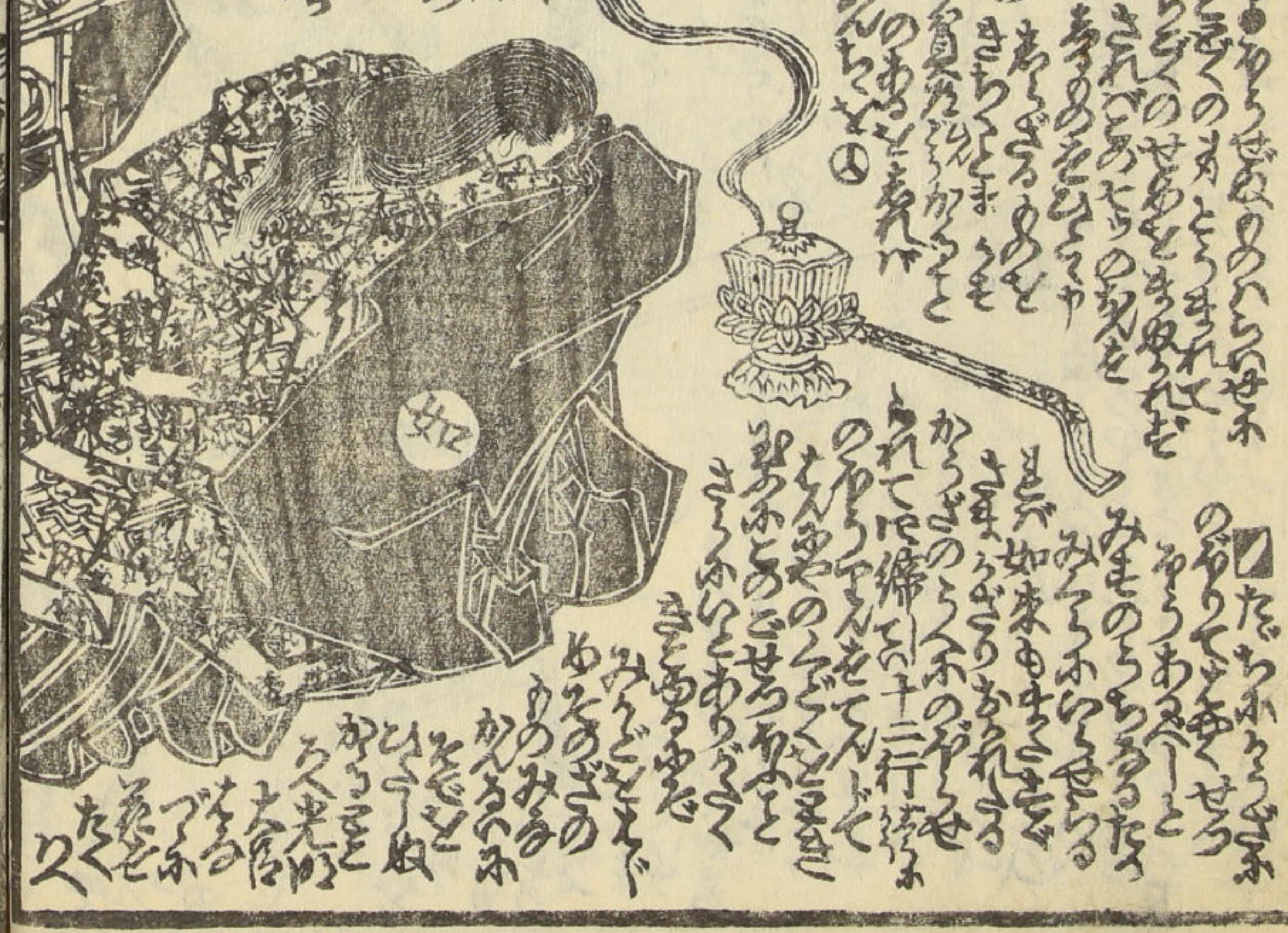




何れも此の世に生れしは  
皆て父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし

何れも此の世に生れしは  
皆て父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし

何れも此の世に生れしは  
皆て父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし



何れも此の世に生れしは  
皆て父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし

何れも此の世に生れしは  
皆て父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし  
然れども此の世に生れし  
身は父母の血を承けし  
身なりと云ふべし































